

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.理念に基づく運営			
1.理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「そのままを認め受け入れ支えていく 側にそっと寄り添う暖かく優しいケアを目指します」という理念の下、本人らしさを発揮しながら地域の中で生活が継続できるように支援している	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の唱和を含めて、個人目標の自己評価をするにあたって自分のケアを振り返る基準としている	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	理念を地域の方に伝えるために、運営推進会議を利用したり、家族へお渡しするパンフレット書類などに記載している	
2.地域との支えあい			
4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	ホームの前ガーデンセットを置いて、出来るだけ外で過ごすようにしている。近所の方が声をかけてくださり、時には腰掛けて一緒にお茶を飲んでいかれる事もある。玄関は天気の良い日には開放している。地域交流会や推進会議を利用して、認知症の理解に努めているが、まだ力不足である	暖かい時期は比較的交流を持ちやすいが、冬場などは難しい。日頃から地域の方がホームへの出入りに抵抗がないような基盤を作りながら、ホーム内でのイベントを企画・実行する。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価は、全職員で行っている。それぞれに解釈が違い、全体を見つめなおす良い機会であると考えている。また、改善点などが挙げられたときには、早期に意見交換を行い、改善している</p>	
6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>地域の方からの意見などは、早急にスタッフに伝えたり、自分の中で改善できる事はすぐに実行に移している。推進会議は、地域の方からは、外からの目線で意見をいただける良い機会であるし、また、家族の方とは、日々忙しい分、ゆっくりと話を出来る場でもあり、開催にあたっては毎回得るものがある。</p>	<p>議題が偏らないように、年間の開催予定日以外に、時期に合わせた議題の計画を立てることも必要である</p>
7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>制度の変更等が多く、迷う事もあるが、市の介護保険課からは、早急に通達があるので、情報を早期に得る事ができる。また、判断に困ったときなども、快く質問を受けて付けてくれるため、今後も積極的に連携を図っていきたい</p>	
8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>以前、権利擁護の手続きをした利用者様がいたが、今後も必要であれば、活用を勧めて行こうと考えている。成年後見制度に関しては、研修への参加などで、大まかな知識はあるものの、現在の利用者様の中では必要性はないが、今後の入居者のことを考えると、もう少し理解度を深めたほうが良いと思っている。</p>	
9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>高齢者虐待防止法については、研修にもスタッフを参加させているし、OJTでも何度も勉強している。スタッフ個人個人が自分の行動言動に責任を持って、利用者様に失礼や不快感を与えなかったか振り返るようにしている。</p>	<p>虐待防止委員会を作ってさらに、ホーム内の虐待防止への意識を高めていきたいと考えている</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>高齢のご家族には、文章だけでは理解しにくいので、イメージしやすくなるように、例を挙げて説明している。説明の場では質問がなくても、その後遡って聞かれる事もあるため、そのときには、しっかり理解していただくため、再度契約書や運営規定などを用いて説明している</p>	
11	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者様とは良く話し合うようにしている。スタッフの行動や言動が不快ではないか？不満ではないか？聞き取りをし、利用者様から出た言葉を大きな問題ととらえている。たとえ、事実でなくても、誤解をされたのはなぜか？原因を探っていくようにしている</p>	
12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月末に、お小遣いを使用した場合のレシートなどを送付する際に、使用目的残金などの他に、健康状態、様子、過ごし方などが分かるように、写真と文章でお知らせしている。</p>	
13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情受付担当者や委員会は設置している。また、面会簿の下に、意見を書いていただくようにしている。日頃から、ご家族様とも本音で話し合えればいいと思ってるが、なかなか苦情は出てこないのが現実であるため、こちらから積極的に意見を伺うようにして、利用者様だけではなく、ご家族様が感じている不満を理解していきたいと想っている。</p>	
14	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員の声は極力取り入れるようにしている。実際ケアに携わっている職員の声は重要であり、自分も参考になる意見も多々ある。スタッフそれぞれがもてる才能、力を最大限引き出して、生き生きと仕事に向かえる環境でありたいと考えている</p>	
15	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の変化や活動時間などに合わせて、勤務時間は変更している。また、新入居の際には、リロケーションダメージを想定し、同じスタッフが1日ケアに当たるようにしたり、早朝深夜などに、2名の配置にする等、事故防止の視点からも細かに調整している</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>面接の際に、認知症の方に対して、なじみの関係というのがどんなに大事か伝え、離職せずに頑張れるかどうかの確認をしている。新年度で、人事異動や新卒の採用もあったが、法人内での異動を踏まえて、以前から交換研修を行っているので、利用者様にも、見た顔だな～という安心感があるよう。</p>	
5.人材の育成と支援			
17	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>事業所内でのOJTに関しては、新人や未経験者でも、ある程度仕事をしてからでないと、弱い部分が見えてこないもので、1ヶ月をめに、OJTの内容を検討し、スタッフそれぞれの弱い部分を延ばすための勉強会を開催している。研修に関しては、日々様子を見て不足している部分についての研修があれば、参加させるという形をとっている。</p>	<p>勤務年数を重ねても、個人の成長や理解力には大きな差がありゆっくり成長していくタイプと、急速に吸収できるタイプがある。数人のスタッフの中で、レベルを揃えていくことは難しいが、個人の研修計画や、研修参加後の評価などを個人レベルで作成するようにしていきたい</p>
18	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>外部研修の内容で、グループワークなどがある研修には、多数参加させ、その中で他事業所のスタッフと交流が持てるようにしている。</p>	
19	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>混乱の激しい利用者様への対応や、身体的な負担のかかる介助に関しては、一人のスタッフだけに負担がかからないように、声を掛け合って助け合うようにしている。また、可能な限り連休を付けたり、4日以上続けて勤務に入る事の無いようローテーションにも気を配っているつもりである</p>	
20	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>資格取得のための教育費を支援したり、資格手当などの制度はある。個人の努力は認めているが、努力や向上心が見られないときには、アドバイスをし、それでも状況が変わらなければ個人的に話をする事もある。スタッフ間でも、しっかり言い合える関係を作るように日々伝えている</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	<p>初期に築く本人、家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ご家族は、身体的・精神的に疲労が溜まっていたりしていることが多いため、ホームに見学に来ていただいた際に2階でゆっくり話を聞いたり、自宅や病院などに本人に面会に行ったりして関係づくりをするようにしている。</p>	
22	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入居に関しては、ご家族様の考えであり、本人が希望して入居する事はない。その部分に関しては、関係性の問題もあるので深く立ち入る事はできないが、在宅で利用できるサービスの組み合わせ方を説明する事はある。在宅とグループホームでは利用料に関しても、大きな差があることも説明をするが、すでに入居を前提としての相談がほとんどである。</p>	
23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居当日には朝から同じスタッフが側につくようにし、ダメージが大きい方の場合は数日間そのような勤務に組み替えひとりでも馴染みの人ができるように工夫する。その間に関係性をアセスメントし、他の利用者との交流へ繋げていく。1日で慣れる方や、数ヶ月掛かる方などさまざまであるが、本人がホームでの生活に折り合いを付ける事ができるように支えている。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者様との関係が長いので、古いスタッフにはあまり、介護しているという意識は無いように思う。確かに慌しくケアに追われている現状ではあるが、どんな事にも耳を傾け、共に笑い合い、悲しみ、そして悪い状況を良くしていきたいと常に考えている様子が見られる。お互いがお互いを必要としている関係のようである。その様子を見て新人達が学んでくれる事を望んでいる</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>		
26	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>		
27	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>		
28	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>		
29	<p>関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>あらためて聞き取りをすると、何でもいいといわれるので、日々の記録から、本人の言葉を参考に、予想を入れてプラン作成している。また、言葉での理解が難しい方は行動をアセスメントし少しでもヒントになることはケアに生かしている</p>	
31	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>昔の記憶は鮮明な事が多く、今までの人生の重みを本人の語る口からずっしりと感じている。いつもと違うことが見えてきた場合、センター方式のアセスメントシートを参考に分析できる事があるため活用している</p>	
32	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>個人個人のタイプ(性格や生活歴家族関係等)を踏まえた上で、どう生活したいか?を日々探っている。しかし、すべて本人の思うようにならないこともあり(健康面や、疾病との関係、身体機能の低下や障害等)認知症の方が自分の現状を理解することの難しさを感じている</p>	
33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>全体的なことは個人マニュアルにしているが、プランとして取り組む内容に関しては、日々の記録であったり、本人の言葉であったり、ご家族様からの情報であったり色々である。実現可能な課題をあれもこれもというのではなく、ピンポイントで取り組めるように作成している。</p>	
34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>見直し前に立て直しが必要になった場合は、その変化の日にちと、変更内容や追加内容を手書きで付け加えるようにしている。ご家族には、面会の際にお伝えし、了承いただいている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
35	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
36	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
37	<p>地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>		
38	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>		
39	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
41	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
42	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
43	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
44	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
45	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
46	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1.その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
47	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
48	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者の動きにスタッフが着いていくようにし、本人が自分の意思で活動したり、休息したりすることが望ましいが、声かけがあって始めて行動に移す事ができるので、適切な言葉を選んで、まず1歩を踏み出す事ができるような支援をしている</p>	
付			
50	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>本人の希望にてホームで毛染めをしたり、行きたいときに近所の床屋に行っている方もいるが、昔馴染みの店に通っている方はいない。</p>	
51	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事づくり、盛り付け、片付けなどの一連の動作には必ず利用者様が関わっている。</p>	
52	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>病気との関連や、ご家族様の要望などもあるが、基本的には嗜好品に関しては楽しめるように支援している。外出が億劫な方でも、嗜好品の買い物に関しては、重い腰をあげるのを、自分のものは自分で買いに行くというのは基本にしている。</p>	
53	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>サインの読み取りが大切である。そこを見逃せば失敗してしまうし、自信の喪失にも繋がるため、どの方が、どんなサインを見せるかを理解し、良いタイミングで排泄できるように支援している。しかし、常に失禁がある方に関しては、不潔にならないように、定時でのトイレ誘導をしてる</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している		
55	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
56	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている		
57	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している		
58	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している		


項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
59	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>誕生日などには本人の要望により、普段行けないところや思い出の場所に出かけることがある。基本的には個別だが、気の合う方と、出かける場合もある</p>		
60	<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>贈り物を頂いたときにはお礼状を直筆で書いていただくようにし、社会の一員としてのつながりが途切れないように支援している</p>		
61	<p>家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>	<p>27にも関連するが、面会時にはお茶などの提供をし、出来るだけ居室でゆっくり話をして頂くようにしている</p>		
(4)安心と安全を支える支援				
62	<p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束の研修会、勉強会への開催をしてどのようなことが拘束に当たるのかという理解は出来ている。新人へは、場面や状況を例に取り都度説明をしている</p>		<p>新人への勉強会の開催</p>
63	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>外に出て行く方はいるが、鍵を掛けることはない。自由に出ていけるということは、帰宅願望のある方には、いつでも帰れるという安心感へと繋がるようである。</p>		
64	<p>利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>	<p>居室は個人の空間として、入室時には断りを入れてから入室している。居室内で転倒していないか、体調不良になっていないか夜間は勿論日中もこまめに見回っている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
65	<p>注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		
66	<p>事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		
67	<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		<p>申し送りや会議を利用して、緊急時や急変の場面を設定し、自分がどう動くのかをシミュレーションできるような勉強会の定期開催を組み込んでいく</p>
68	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		<p>火災がメインの訓練であるので、水害・地震に対する訓練等も取り入れていく。また、緊急時のご家族の方や近隣の方への協力要請などをしっかりと文章で作成する</p>
69	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
70	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
71	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>		<p>新人スタッフに対しての、服薬の内容や薬剤の効果・副作用などを勉強会の開催をして、大まかにでも理解出来るようにしていくことで、リスク管理していく</p>
72	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>		
73	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>毎食後の義歯の方は外して洗浄を手伝っている、義歯の無い方はスポンジブラシを使っている。</p>	
74	<p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>水分を取りたがらない方が多く、いろいろな飲み物をお出ししたり、ゼリーにして出ししたりして、なんとか摂取量は保たれている。食事に関しては、</p>	
75	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>研修への参加、マニュアル作成、管理者からの情報提供などにより、予防重視の取り決めがある。利用者様も外出後には、手洗いうがいをしていただいている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
76	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	<p>布巾の煮沸など夜勤者が調理具の消毒及び冷蔵庫内の食品管理をしている。期限の近いの物は、次の朝に申し送り、無駄にしないで食べきるようにしている。調理済のものは、次の日に持ち越さず、残ったら処分している</p>	
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>			
77	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	<p>玄関は夏場はほとんど開放している。天気の良い日には利用者様も外で過ごすことが多くなるため、地域の方との交流が増えるいい時期である。道路に面しているため、よく見られているようなので、整理整頓を心がけ、清潔な環境を保つようにしている</p>	
78	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>電気は、明るすぎないように、自然光に合わせてつけたり消したりしている。テレビは、悲慘なニュースが多く被害妄想に繋がったりするため番組を選んでつけたり、音楽に切り替えるなどしている。食堂の壁には、季節を感じられるように皆さんで壁飾りを作り飾りしている</p>	
79	<p>共用空間における居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>利用者様の変化や、関係性にあわせて、何度も配置転換しているが、狭いため、事務所も利用者様に開放している。いつもとなりに居る人が居ないだけで、不機嫌になったり、居るだけで安心できる関係性が築かれており、大切にしていきたいと思う</p>	
80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人が、居室を「寝るところ」としているのか「家」としているのか、それぞれの解釈にあわせている。ほとんどの方が、食堂や居室で過ごしているため、共有部分を家庭的な雰囲気にしつらえている。入居時に馴染みの家具を持ち込むようにご説明をしているが、ほとんどの方が持ち込み家具はないのが現状である</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
81	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	起床後、皆さんが朝食を摂っている間に、窓を開けさせてもらっている。しかし、お年よりは窓を開ける事が嫌いなので、食後居室に戻るときには出来るだけ閉めておくようにしている。また、ポータブル使用の方は特に、排便の後はしっかり換気するようにしている		狭いので、食事づくりのにおいなどがこもるときがある。利用者様はもちろん、外から来た方に不快を与えないように、こまめに換気をする
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	規定のサイズのテーブルや椅子なので、座高や下腿長の合わせて、クッションや足台などで調節している。居室の鏡なども車椅子や座位で使う方には合っていないので、本人の目線に合った高さに変えるなどの工夫をする事で、少しでも生活しやすい環境を工夫している		
83	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	[目印をつければ、電気のスイッチが押せる][番号を押せば、電話で会話が出来る]など出来る範囲、分かる範囲がどこまでなのか把握して、そこまでの手助けが出来るようにしている。すべてスタッフがやってしまうないように意識はしているが、待てないときもあるのが実情である		
84	建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ホーム内(特に1階部分)が狭いので、2階やホーム外での活動の機会を多く作るようにしている。ホームの前は以前駐車スペースだったが、利用者様やご家族に使って頂いている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)